

監査報告書の拡張と証券市場

ーゴーイング・コンサーン情報の株価反応に関するレビューー

浅野 信博
今西 史弥

目次

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. はじめに | 3. 国内の先行研究のレビュー |
| 2. 海外の先行研究のレビュー | 4. 終わりに |

監査報告書の拡張によって新たに開示されることが有力視されている監査情報の一つに、ゴーイング・コンサーン情報がある。わが国においては、ゴーイング・コンサーン情報は不確実性の程度に応じて2段階の開示制度が採用されているが、現行制度を対象とした実証研究はほとんど存在しない。本稿では、ゴーイング・コンサーン情報が証券市場にどのように捉えられているのかについて、単一変量分析を行った国内外の先行研究のレビューを実施したのち、将来において期待される研究について展望する。

1. はじめに

わが国において、導入に向けて検討されている監査報告書の拡張の議論の中で、重要な監査事項 (Key Audit Matters: KAM) として新たに提供される監査情報の有力な候補として、(1) ゴーイング・コンサーン情報、(2) 継続監査期間、(3) 監査役等とのコミュニケーションなどが存在する。

本稿では、このうちゴーイング・コンサーン情報 (以下、GC情報) に注目し、監査報告書によって新たに提供される可能性が高いGC情報が、証券市場においてこれまでどのように捉えられているのかについて、既に蓄積されている研究を対象にナラティブレビュー (伝統的レビュー) を実施する (注1)。

GC情報に対する証券市場の反応については、



浅野 信博 (あさの のぶひろ)

大阪市立大学大学院経営学研究科 准教授。1999年3月、大阪大学大学院経済学研究科博士後期課程単位取得満期退学。追手門学院大学経営学部専任講師、助教授を経て、2005年4月より現職。主な著書に『実証的監査理論の構築』(共著 同文館出版)、『会計学の手法』(共著 中央経済社)がある。博士 (経済学、大阪大学)。



今西 史弥 (いまにし ふみや)

大阪市立大学大学院経営学研究科 後期博士課程在籍中。主な業績として「わが国におけるゴーイング・コンサーン情報の開示に関する基礎研究」(共著)、「わが国におけるゴーイング・コンサーン情報開示の決定要因分析」(単著)がある。修士 (経営学、大阪市立大学)。